

令和7年火災・救急概況（速報）

～令和7年1月1日から令和7年12月31日まで～

① 火災件数が大幅に増加し、複数の項目が過去10年で最多を記録

- ・全火災件数は779件で、前年から101件増加しました。一方で、焼損床面積は約1,000㎡減少しました。
- ・建物火災（494件）、建物火災のうちの住宅火災（322件）、電気火災（※）（223件）は、いずれも過去10年で最多となりました。
- ・電気火災のうち、リチウムイオン電池関連火災は67件で、過去最多となりました。

② 救急出場件数・搬送人員ともに5年ぶりに減少

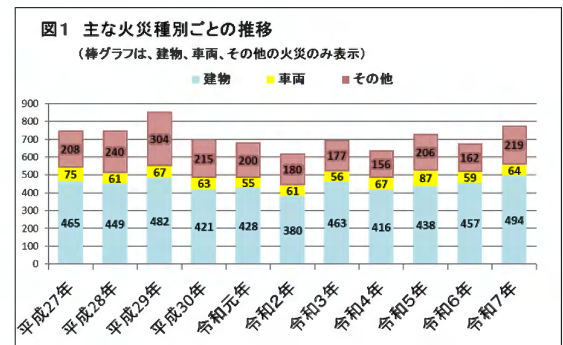
- ・救急出場件数は245,321件で、前年と比べて11,160件（4.4%）減少しました。
- ・搬送人員は199,882人で、前年と比べて7,589人（3.7%）減少しました。
- ・救急出場・搬送人員ともに5年ぶりに減少しました。

※電気火災とは、電気をエネルギーとする機器や用品、設備などが発火源となった火災です。

1 火災の概況（詳細は、別添資料1参照）

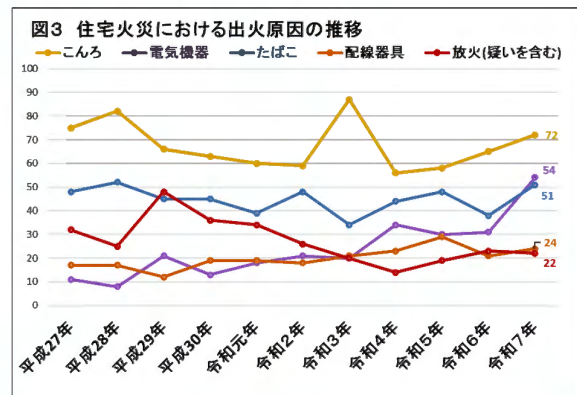
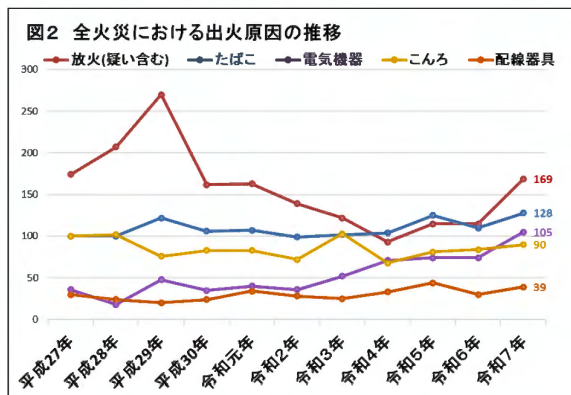
(1) 火災件数【図1】

- ・全火災件数は779件で、前年と比べて101件増加した一方で、焼損床面積は5,813㎡で、前年と比べ1,033㎡減少しました。火災種別ごとにみると、建物火災は494件（前年比37件増）、車両火災は64件（同5件増）、船舶火災は2件（同2件増）、その他の火災は219件（同57件増）となりました。
- ・建物火災のうち住宅火災は322件（同32件増）でした。



(2) 主な出火原因【図2】【図3】

- ・全火災の出火原因第1位は、「放火（疑い含む）」169件（前年比54件増）で、次いで「たばこ」128件（同18件増）、「電気機器」105件（同31件増）となりました。
- ・住宅火災の出火原因第1位は、「こんろ」72件（同7件増）で、次いで「電気機器」54件（同23件増）、「たばこ」51件（同13件増）となりました。



裏面あり

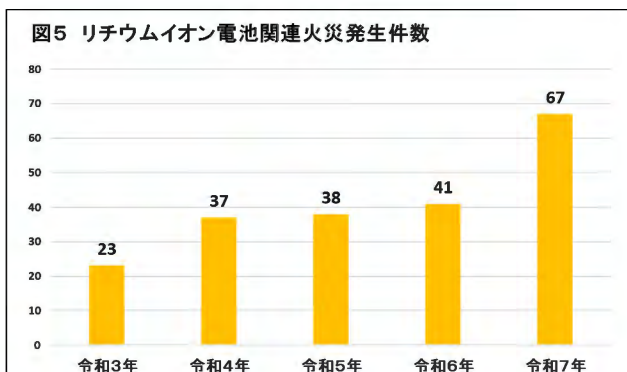
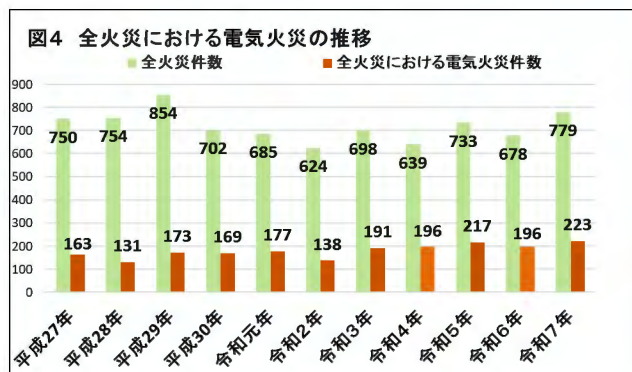
GREEN×EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷



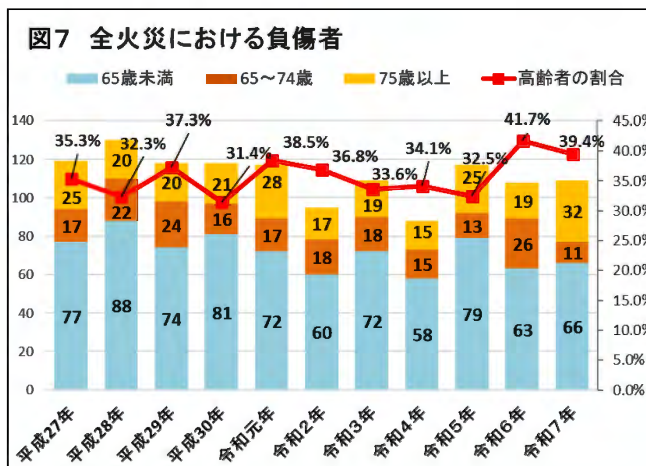
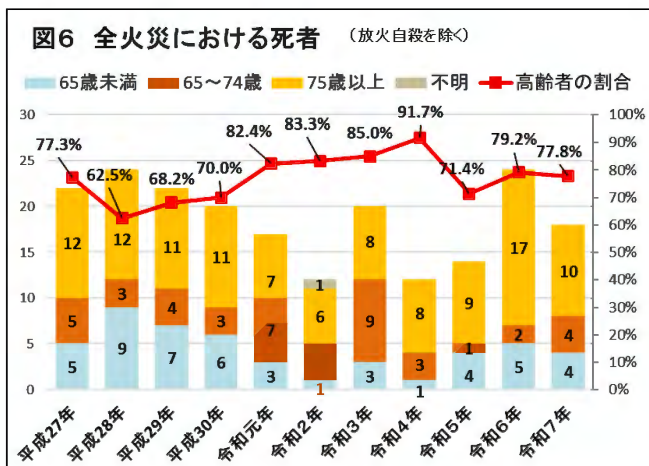
(3) 電気火災及びリチウムイオン電池関連火災【図4】【図5】

- ・全火災のうち223件（28.6％）が「電気火災」で、過去10年で最多となりました。出火原因別では、モバイルバッテリーや電子レンジなどを発火源とする電気機器が105件（前年比31件増）でこちらも過去10年で最多となり、テーブルタップなどを発火源とする配線器具が39件（同9件増）となりました。
- ・リチウムイオン電池に起因した火災は67件（同26件増）で、統計を取り始めた令和3年以降、過去最多となりました。



(4) 火災による死者及び負傷者【図6】【図7】

- ・放火自殺を除く全火災の死者は18人（前年比6人減）で、過去10年平均から1人減少し、そのうち14人（77.8％）が65歳以上の高齢者でした。また、全員が住宅火災でお亡くなりになりました。
- ・火災による負傷者は109人（同1人増）で、過去10年平均から3人減少し、そのうち43人（39.4％）が65歳以上の高齢者でした。また、86人（78.9％）が住宅火災で負傷しました。



火災を起こさないために！今できる防火対策

- 住宅火災出火原因ワースト1！こんろ火災対策
こんろ使用時は、着衣着火を防ぐために、袖や裾の広がった服は避けましょう。
また、油の発火や空焚きを防ぐため安全機能（Si センサー）付きのこんろを使用し、調理中はその場を絶対に離れないようにしましょう。
- 冬に急増！ストーブ火災対策
ストーブの近くに燃えやすいものを置かないようにしましょう。
また、外出時や就寝時は、必ず消しましょう。

リチウムイオン電池火災にご注意ください！

- リチウムイオン電池は、充電して繰り返し使える小型で軽量の電池で、モバイルバッテリーやスマートフォンなど、身近な電子機器に広く利用されています。しかし、誤った使い方や劣化した製品を使用し続けると、火災が発生する恐れがあります。

こんな時は危険💧 1つでも当てはまる場合は、火災の危険があります！今すぐチェックしましょう☑

☐ 熱がこもりやすい場所で使用している ☐ 膨らみ、変形している ☐ 過去に落下させたことがある

☐ 使用中や充電中に発熱することがある ☐ 充電できないなどの不具合がある ☐ PSEマークがない

より詳しい防火対策は、
よこはま防災e-パークで
チェック！▼▼▼



GREEN×EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

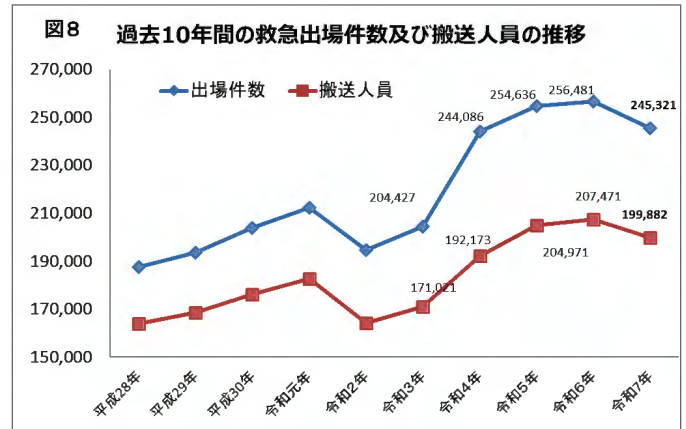
2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷



2 救急の概況（詳細は、別添資料2 参照）

(1) 救急出場件数及び搬送人員【図8】

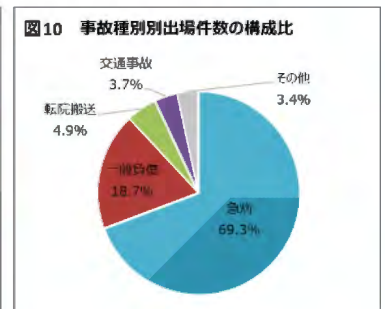
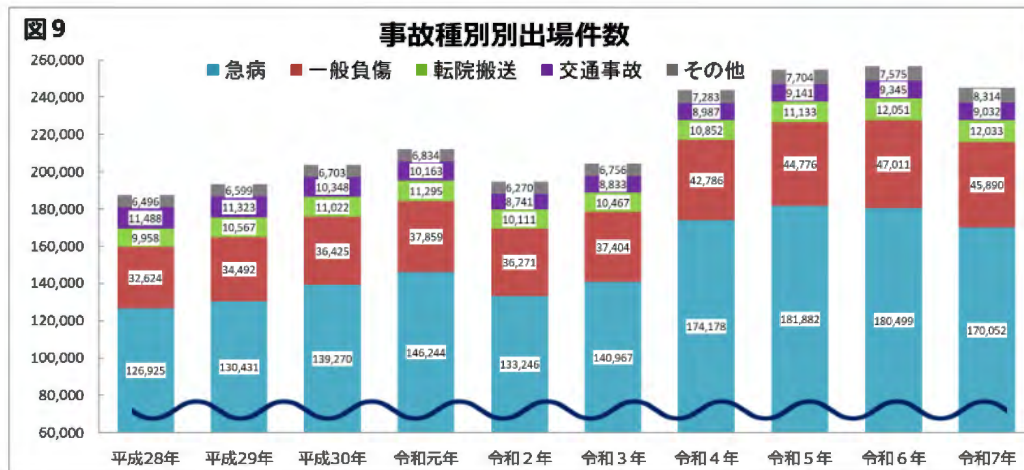
- ・救急出場件数は 245,321 件（前年比 11,160 件減）となりました。
- ・搬送人員は 199,882 人（同 7,589 人減）となりました。
- ・1日あたりの平均救急出場件数は 672 件（同 29 件減）となりました。
- ・2分8秒に1回救急車が出場していることとなります（前年は2分4秒に1回）。
- ・市民の 15 人に 1 人が救急車を利用されたこととなります。



(2) 事故種別別出場件数【図9】【図10】

- ・事故種別ごとの救急出場件数は、「急病」が 170,052 件（前年比 10,447 件減）で最も多く、次いで「一般負傷※」が 45,890 件（同 1,121 件減）、「転院搬送」が 12,033 件（同 18 件減）、「交通事故」が 9,032 件（同 313 件減）となりました。

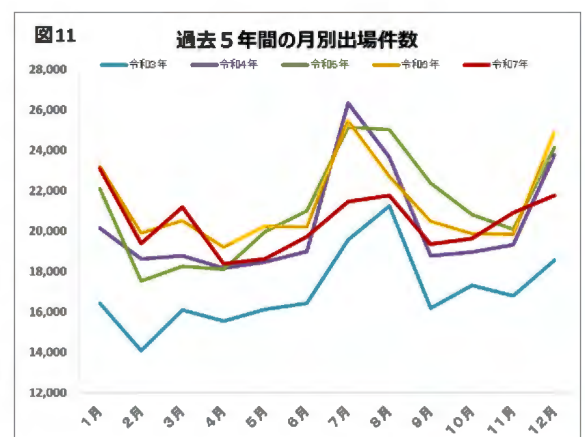
※一般負傷：「労働災害や運動競技等に分類されない不慮の事故」をいい、転倒・転落、やけど等が該当します。



(3) 月別出場件数【図11】

- ・1か月あたりの平均救急出場件数は 20,443 件（前年比 930 件減）となりました。
- ・1月が 23,121 件（同 71 件減）で最も多く、次いで8月が 21,775 件（同 938 件減）、12月が 21,757 件（同 3,100 件減）となりました。熱中症による搬送者が増加した時期や感染症が流行した時期に、救急要請が多くなる傾向がみられました。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月
令和7年	23,121 件	19,400 件	21,176 件	18,379 件	18,613 件	19,726 件
令和6年	23,192 件	19,896 件	20,510 件	19,219 件	20,230 件	20,226 件
増減比	△ 0.3 %	△ 2.5 %	3.2 %	△ 4.4 %	△ 8.0 %	△ 2.5 %
	7月	8月	9月	10月	11月	12月
令和7年	21,449 件	21,775 件	19,371 件	19,638 件	20,916 件	21,757 件
令和6年	25,442 件	22,713 件	20,480 件	19,883 件	19,833 件	24,857 件
増減比	△ 15.7 %	△ 4.1 %	△ 5.4 %	△ 1.2 %	5.5 %	△ 12.5 %



裏面あり



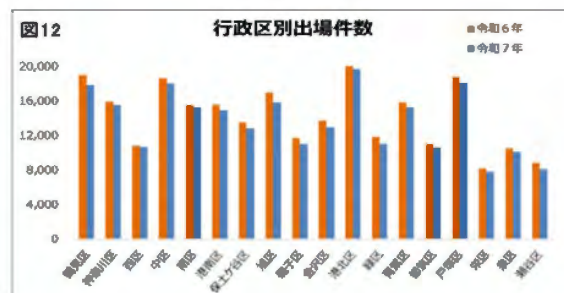
GREEN×EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷



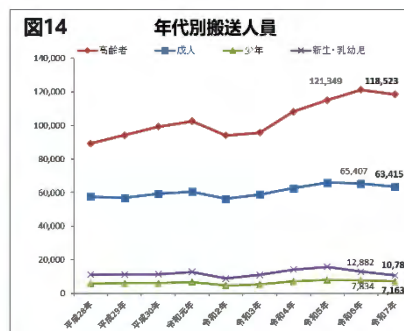
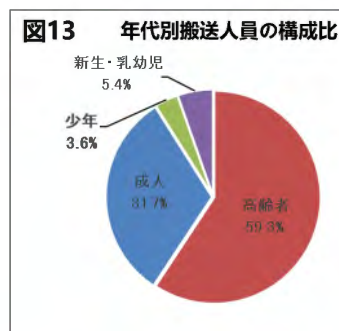
(4) 行政区別出場件数【図 12】

- ・行政区別の救急出場件数は、港北区が 19,677 件で最も多く、次いで戸塚区が 18,065 件、中区が 17,996 件となりました。
- ・前年と比べて、全区で救急出場件数が減少し、減少数が最も多かったのは、旭区の 1,172 件で、減少割合が最も大きかったのは、瀬谷区の 7.9%でした。



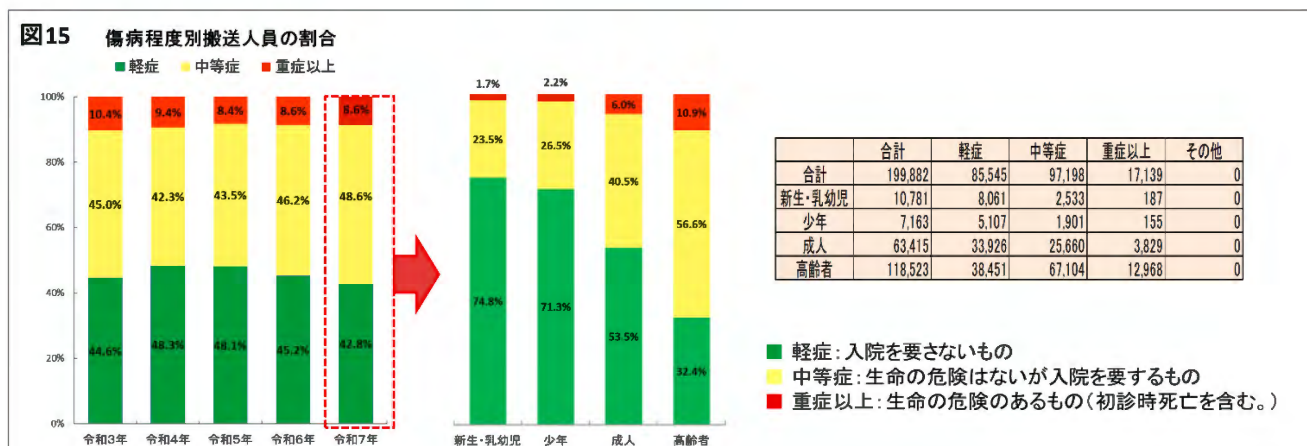
(5) 年代別搬送人員【図 13】【図 14】

- ・前年と比べて全年代で減少しました。
- ・年代別の搬送人員では、65 歳以上の「高齢者」が 118,523 人 (59.3%) と最も多く、次いで 18 歳以上 65 歳未満の「成人」が 63,415 人 (31.7%)、7 歳未満の「新生・乳幼児」が 10,781 人 (5.4%)、7 歳以上 18 歳未満の「少年」が 7,163 人 (3.6%) の順となりました。



(6) 傷病程度別搬送人員（医療機関初診時）【図 15】

傷病程度別の搬送人員は、「中等症」が 97,198 人（前年比 1,443 人増）で最も多く、次いで、「軽症」が 85,545 人（同 8,324 人減）、「重症以上」が 17,139 人（同 704 人減）となりました。



※グラフ等の割合は小数第 2 位を四捨五入しているため、表中の合計が 100.0%にならない場合があります。

あんしん救急-知って予防！救急車

横浜市では、病気やケガの予防策や救急相談センター（#7119）などの相談先、119 番通報が必要な症状といった場面に応じた対応をお知らせする「あんしん救急」の取組により救急車の適正利用を推進しています。

令和 7 年は、市民の皆様にご理解・ご協力いただき、軽症の搬送者が前年より約 1 割（8,324 人）減少しました。

今後も救える命を救うため、救急車の適正利用にご協力をお願いします。



詳しくは
こちら▶



お問合せ先

(火災に関すること)	消防局予防課長	川島 正裕	Te1 045-334-6601
(救急に関すること)	消防局救急企画課長	谷津 直樹	Te1 045-334-6771



GREEN×EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷



火 災 概 況 〈 速 報 〉

1 火災種別・損害状況

単位：件

年別 区分		令和 7 年 (A)	令和 6 年 (B)	前年比 (A) - (B)	過去10年間の平均 (平成27年～令和 6 年) (C)	増△減 (A) - (C)
火災種別	全 火 災	779	678	101	712	67
	建 物 火 災	494	457	37	440	54
	住 宅 火 災	322	290	32	285	37
	林 野 火 災	-	-	-	-	-
	車 両 火 災	64	59	5	65	△1
	船 舶 火 災	2	-	2	2	-
	航 空 機 火 災	-	-	-	-	-
	そ の 他 の 火 災	219	162	57	205	14
損害状況	焼損床面積(㎡)	5,813	6,846	△1,033	6,678	△865
	死 者 (人)	22	25	△3	21	1
	放火自殺者	4	1	3	3	1
	負 傷 者 (人)	109	108	1	112	△3
	住 宅 火 災					
	焼損床面積(㎡)	4,008	5,674	△1,666	4,185	△177
	死 者 (人)	18	25	△7	19	△1
	放火自殺者	-	1	△1	1	△1
	負 傷 者 (人)	86	80	6	84	2

備考 住宅火災の件数は建物火災の内数、住宅火災の損害状況は全火災の損害状況の内数 また、放火自殺者数は死者数の内数
過去10年間の平均の数値は小数点以下を四捨五入してあるので、合計と一致しない場合があります。

2 主な出火原因

単位：件

年別 区分		令和 7 年 (A)	令和 6 年 (B)	前年比 (A) - (B)	過去10年間の平均 (平成27年～令和 6 年) (C)	増△減 (A) - (C)
全 火 災	放火(疑いを含む)	169	115	54	156	13
	たばこ	128	110	18	108	20
	電気機器	105 (105)	74 (74)	31 (31)	48 (48)	57 (57)
	こんろ	90 (8)	84 (6)	6 (2)	85 (7)	5 (1)
	配線器具	39 (39)	30 (30)	9 (9)	29 (29)	10 (10)
	上記以外の出火原因	248 (71)	265 (86)	△17 (△15)	285 (90)	△37 (△19)
	計	779 (223)	678 (196)	101 (27)	712 (175)	67 (48)
住 宅 火 災	こんろ	72 (6)	65 (3)	7 (3)	70 (6)	2 -
	電気機器	54 (54)	31 (31)	23 (23)	44 (21)	10 (33)
	たばこ	51 -	38 -	13 -	19 -	32 -
	配線器具	24 (24)	21 (21)	3 (3)	31 (20)	△7 (4)
	放火(疑いを含む)	22 -	23 -	△1 -	22 -	- -
	上記以外の出火原因	99 (38)	112 (42)	△13 (△4)	100 (38)	△1 -
	計	322 (122)	290 (97)	32 (25)	285 (85)	37 (37)

備考 ()内は電気起因する火災で各出火原因の内数
過去10年間の平均の数値は小数点以下を四捨五入してあるので、合計と一致しない場合があります。

3 行政区別火災発生状況

単位：件

年別 区分		令和 7 年 (A)	令和 6 年 (B)	前年比 (A) - (B)	過去10年間の平均 (平成27年～令和 6 年) (C)	増△減 (A) - (C)
行 政 区	鶴 見 区	61	48	13	60	1
	神 奈 川 区	39	42	△3	45	△6
	西 区	28	38	△10	33	△5
	中 区	95	93	2	71	24
	南 区	56	41	15	40	16
	港 南 区	35	28	7	36	△1
	保 土 ケ 谷 区	41	34	7	35	6
	旭 区	45	34	11	43	2
	磯 子 区	39	22	17	27	12
	金 沢 区	43	40	3	36	7
	港 北 区	67	74	△7	64	3
	緑 区	36	16	20	30	6
	青 葉 区	38	30	8	40	△2
	都 筑 区	40	18	22	33	7
	戸 塚 区	51	45	6	49	2
	栄 区	17	20	△3	17	-
	泉 区	26	27	△1	27	△1
	瀬 谷 区	22	28	△6	27	△5
	合 計	779	678	101	712	67

備考 過去10年間の平均の数値は小数点以下を四捨五入してあるので、合計と一致しない場合があります。

救 急 概 況 < 速 報 >

単位：件

区 分\年 別	令和 7 年		令和 6 年		増△減	増減比
	件数	構成比	件数	構成比		
出場件数	245,321		256,481		△ 11,160	△4.4%
1日当たりの出場件数	672		701		△ 29	
出場率（何分何秒に1回）	2分8秒に1回		2分4秒に1回		—	
市民の救急車利用状況	15人に1人が利用		15人に1人が利用		—	

※令和7年の人口については、令和7年12月1日推計値（政策局総務部統計情報課資料）による。

事故種別別出場件数

単位：件

事故種別	令和 7 年	構成比	令和 6 年	構成比	増△減	増減比
急 病	170,052	69.3%	180,499	70.4%	△ 10,447	△5.8%
一 般 負 傷	45,890	18.7%	47,011	18.3%	△ 1,121	△2.4%
転院搬送	12,033	4.9%	12,051	4.7%	△ 18	△0.1%
交通事故	9,032	3.7%	9,345	3.6%	△ 313	△3.3%
そ の 他	8,314	3.4%	7,575	3.0%	739	9.8%
合計	245,321	100.0%	256,481	100.0%	△ 11,160	△4.4%

※その他とは、加害や自損行為などを含む。

傷病程度別搬送人員

単位：人

傷病程度	令和 7 年	構成比	令和 6 年	構成比	増△減	増減比
軽 症	85,545	42.8%	93,869	45.2%	△ 8,324	△8.9%
中 等 症	97,198	48.6%	95,755	46.2%	1,443	1.5%
重 症 以 上	17,139	8.6%	17,843	8.6%	△ 704	△3.9%
そ の 他	0	0.0%	4	0.0%	△ 4	△100.0%
合計	199,882	100.0%	207,471	100.0%	△ 7,589	△3.7%

※その他とは、医療機関に搬送はしたが、受診拒否など傷病程度の示しがないもの。

年代別搬送人員

単位：人

傷病者年代区分	令和 7 年	構成比	令和 6 年	構成比	増△減	増減比
新生児・乳幼児（0歳以上7歳未満）	10,781	5.4%	12,883	6.2%	△ 2,102	△16.3%
少年（7歳以上18歳未満）	7,163	3.6%	7,833	3.8%	△ 670	△8.6%
成人（18歳以上65歳未満）	63,415	31.7%	65,416	31.5%	△ 2,001	△3.1%
高齢者（65歳以上）	118,523	59.3%	121,339	58.5%	△ 2,816	△2.3%
合計	199,882	100.0%	207,471	100.0%	△ 7,589	△3.7%

行政区別救急出場件数

単位：件

行政区	令和 7 年	令和 6 年	増減比	行政区	令和 7 年	令和 6 年	増減比
鶴見	17,832	18,986	△6.1%	港北	19,677	20,313	△3.1%
神奈川	15,518	15,874	△2.2%	緑	11,017	11,838	△6.9%
西	10,638	10,807	△1.6%	青葉	15,233	15,857	△3.9%
中	17,996	18,603	△3.3%	都筑	10,580	10,984	△3.7%
南	15,257	15,534	△1.8%	戸塚	18,065	18,821	△4.0%
港南	14,910	15,542	△4.1%	栄	7,769	8,127	△4.4%
保土ヶ谷	12,798	13,481	△5.1%	泉	10,109	10,495	△3.7%
旭	15,823	16,995	△6.9%	瀬谷	8,117	8,816	△7.9%
磯子	11,007	11,674	△5.7%	市外	57	50	14.0%
金沢	12,918	13,684	△5.6%				

※令和7年中の出場件数の内訳及び搬送人員の数値は、速報値であり、確定値ではありません。

※構成比率は少数第2位を四捨五入しているため、表中の合計が100.0%にならない場合があります。